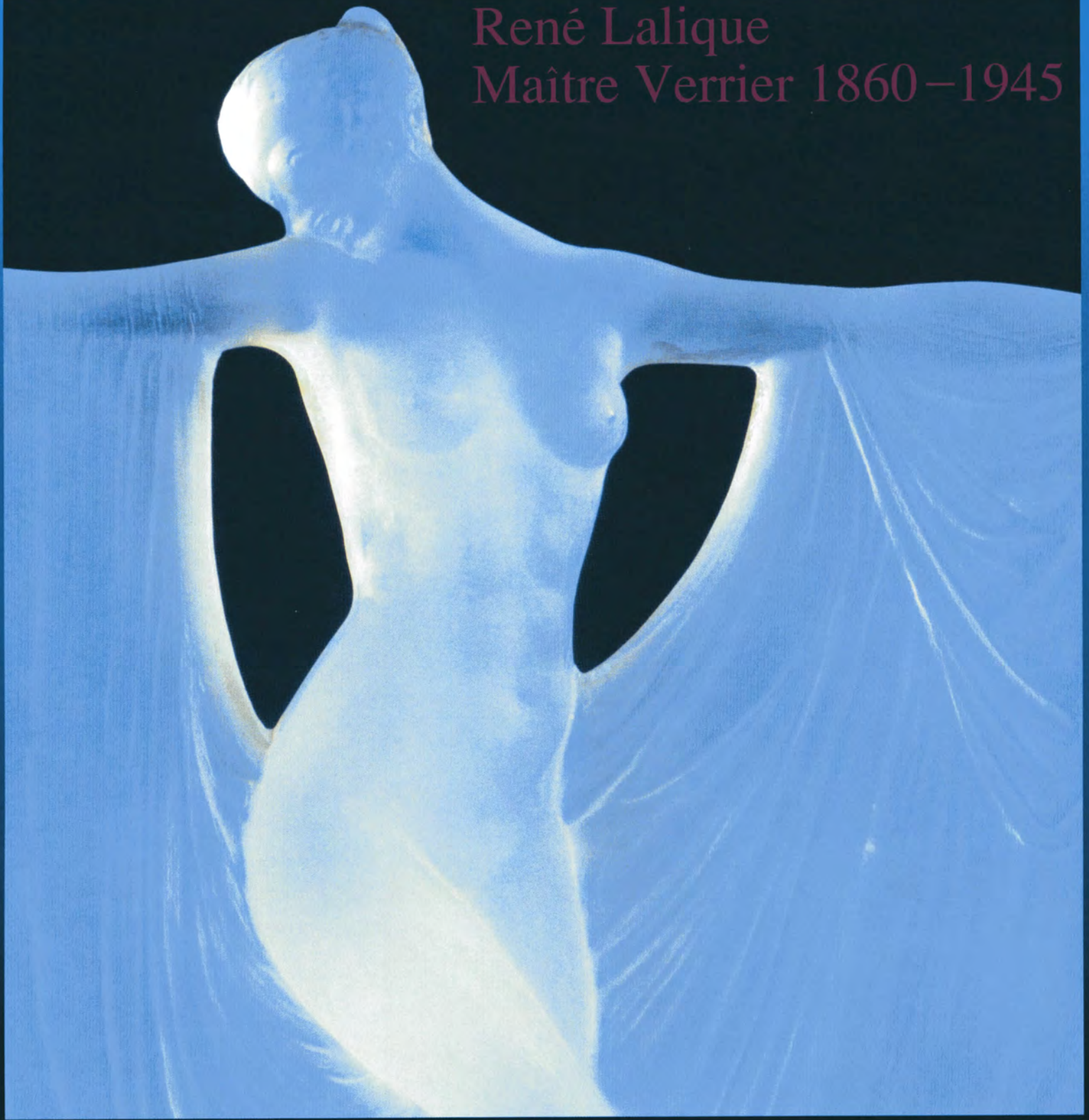


René Lalique
Maître Verrier 1860-1945



立像《シュザンヌ》1925年

光への軌跡

ルネ・ラリック展

2007. 4月20日(金) - 6月3日(日)

- 休館日=月曜日(ただし、4月30日(月・祝)は開館、翌5月1日(火)は休館)
- 開館時間=火~金曜日(9:30~19:00) / 土・日曜日・祝日(9:30~17:00) / 入室はいつでも開館30分前まで / 初日は午前10時開展式
- 入場料 一般 1,000円(800円) 高・大生 500円(400円) 小中生 300円(240円)
- ()内は前売りおよび団体20名様以上の料金 前売りは美術館1階受付にて開催前日まで販売 ● 会期中の土曜日は小・中・高生入場無料
- 65歳以上の高齢者(長寿手帳等が必要)・身体障害者手帳・療育手帳または精神障害者保健福祉手帳所持者は入場無料
- 主催=高松市美術館 西日本放送 後援=フランス大使館 協力=ギャルリー・オルフェ 監修=池田まゆみ 企画制作=イムラアートギャラリー

René Lalique

Takamatsu City Museum of Art
高松市美術館

〒760-0027 香川県高松市紺屋町10-4 Tel.087-823-1711
ホームページ <http://www.city.takamatsu.kagawa.jp/647.html>

René Lalique Maître Verrier 1860-1945



花瓶《ベートルカ》1929年
アール・デコならではのダイナミックで力強い造形。青銅器を思わせる存在感ある厚手の花瓶。



花瓶《イバラ》1921年
フォービズムの原色絵画やロシア・バレエの影響から、色ガラスが用いられたモデル。



シール・ペルデュ蓋付花瓶《カエルと六本の水草》1921年
貴金属の鋳造法をガラスに活かした、1点制作の珍しい作品。表面に残る指紋がこの技法の精巧さを物語る。



香水瓶《シダ》1912年
眼に見えない香りの魅力を形におきかえたラリックのデザインは好評を博し、香水瓶が造形化の時代に入る契機を生んだ。



香水瓶ドルシー《彼女らの魂》1913年
本来付属物に過ぎない栓をデザインの主役に据えたユニークな造形。



花瓶《バックスの巫女》1927年
光の当て方で色彩が劇的に変化するオパールセント・ガラスによる花瓶。酒の神に仕える巫女たちの熱狂的な輪舞がモチーフ。



カーマスコット《勝利の女神》1928年
自動車のラジエーター・キャップに付けるマスコットとして作られたユニークな作品。

アール・ヌーヴォーの宝飾作家として一世を風靡したルネ・ラリック(1860-1945)は、50歳を迎えた1910年頃からガラス工芸に転向し、1910～30年代のアール・デコ期を代表するガラスの巨匠として活躍しました。ラリックのガラス工芸は、溶けたガラスを鋳型に吹き入れ、形と装飾を同時に作り出すもので、美的な完成度を損なうことなく量産を可能にしたその独自のスタイルは、科学とテクノロジーの時代20世紀にふさわしい芸術として、高く評価されてきました。本展覧会では、透明ガラスを自在にあやつり、めくるめく光の世界を創造したラリックのガラス工芸の魅力を、花瓶、香水瓶、化粧道具、アクセサリー、食器、ランプ、立像、カーマスコットなど、代表作約180点により余すところなくご紹介します。

René Lalique

記念講演会「ルネ・ラリックの生涯と作品」
日時:4月21日(土)14時
講師:池田まゆみ氏(美術工芸史家、本展覧会監修者)
会場:美術館1階講堂 聴講無料(先着200名)

ギャラリートーク(観覧券が必要)

- 池田まゆみ氏によるギャラリートーク
4月20日(金)開展式(10時～)終了後、2階展示室にて
- 当館学芸員によるギャラリートーク
4月28日(土)午後2時より2階展示室にて
- 美術館ボランティアcivi(シヴィ)によるギャラリートーク
会期中の日曜日・祝日 午前11時～午後2時 / 1日2回 2階展示室にて

子ども向けのプログラム

- アートで遊ぼう!(鑑賞プログラム)
5月26日(土)(ラリック展) / 6月30日(土)(2期常設展) / 7月28日(土)(海洋堂の軌跡展)
午前9時30分～11時
対象:小学3～6年生 定員:15名(先着順)
なるべく3回連続で受講してください。お申込は美術館受付または電話で。

常設展のお知らせ

- 第1期常設展 4月3日(火)～6月10日(日)
※特別展のチケットでご覧いただけます。

次回催物のお知らせ

- 造形集団 海洋堂の軌跡展
7月20日(金)～9月2日(日)



交通のご案内

JR四国-JR高松駅下車、南へ徒歩15分
ことでん-瓦町駅、片原町駅下車、徒歩10分
バス路線-(ショッピング・レインボー巡回バス)紺屋町バス停下車、徒歩3分
駐車場-美術館地下に公営駐車場(有料、乗用車144台収容)